

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力を踏まえつつ、高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 魅力ある授業の実施

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、平成 30 年度までに全教科で到達目標を明確にしたシラバスを完成させ、生徒に対して明確な道標を提供する

また、新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、平成 31 年度までに「アクティブ・ラーニング」と大学進学を両立をめざした「高津授業メソッド」を完成させる

*生徒向け授業アンケートの項目 8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（H28：3.2/4 点満点）を平成 29 年度以降も 3.2 以上で維持する

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容と規模を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/H28：73 人）を、平成 31 年度までに 80 人以上とし、一層の増加に努める

*国立大学への現役生の合格者数（H28：139 人）を、平成 31 年度まで 130 人以上で維持し、一層の増加に努める

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*実用英語技能検定試験 2 級合格者数（H28：112 人）を、平成 31 年度まで 100 人以上で維持し、一層の増加に努める

*TOEFL iBT（チャレンジ）のスコア取得（H28：60 点以上 14 人/78 人）を平成 30 年度までにステージ 2（対象人数の 10%以上が 80 点以上、20%以上が 60～79 点）に引きあげ、平成 31 年度も維持する

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*文理学科 2 年生の「課題研究」に対する満足度を高めるとともに、普通科生徒の参加数（H28：約 150 人）を、平成 31 年度まで 150 人以上で維持し続ける

イ 創造探究事業（高大連携）の内容の充実

*1・2 年生の文理学科の外部連携事業への延べ参加者数（H28：1,596 人）を、平成 31 年度まで 1,000 人以上で維持し続ける

ウ 海外の科学先進校等との交流の推進

海外の科学先進校等との交流日数を増やすとともに、共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

*交流先の拡大を図るとともに、交流日数（H28 年度：9 日）を平成 31 年度までに 10 日以上に増加させる

(3) 進路指導をさらに充実させる

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1 年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2 年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2 年生とも訪問先（H28：1 年生 63 カ所、2 年生 52 カ所）を、平成 31 年度まで 50 カ所以上、生徒満足度（H28：93%）を 90%以上で維持する

イ 3 年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム：KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*学校教育自己診断の進路指導への満足度（H28：生徒 80%・保護者 75%）を、平成 31 年度までにともに 80%以上（「わからない」を除く）に引きあげる

2 スクールアイデンティティに基づき、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と生徒の社会体験活動の促進

*学校教育自己診断の、人権に関する指導に対する肯定率（H28：生徒 80% 保護者 80%）を、平成 31 年度までに 85%以上に引きあげる

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（H28：100%）を、平成 31 年度まで 90%以上で維持し続ける

(2) 規律・規範意識の向上

*年間の遅刻者総数（H28：2,329 件）を、平成 31 年度までに 2,000 件以下とする

(3) 生徒の自主的活動の活性化（部活動、生徒自治会活動）

*部活動加入率（H28：86%）を、平成 31 年度まで 85%以上で維持し、一層の増加に努める

*生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（H28：62%）を、平成 31 年度までに 70%以上に引きあげる

(4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く/H28：81%）を、平成 31 年度まで 80%以上で維持し、一層の向上に努める

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 教科指導力の向上

*生徒向け授業アンケートの全項目平均値（H28：3.2/4 点満点）を、平成 31 年度まで 3.2 以上で維持し続ける

(2) 研修の充実

*教員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率（H28：79%）を、平成 31 年度までに 80%以上とし、維持し続ける

(3) ミドルリーダーの育成と経験の少ない教員のさらなる資質向上

*教員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率（H28：75%）を、平成 31 年度まで 70%以上で維持し続ける

(4) 学校の組織的運営

*教員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（H28：60%）を、平成 31 年度までに 70%以上とする

(5) ICT活用ならびに実験・実習、体験的な教科指導の充実、校務の効率化及び情報共有

*生徒向け学校教育自己診断の ICT 活用や実験・実習、体験的な教科指導に対する満足度（H28：90%）を、平成 31 年度まで 80%以上で維持し続ける

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、クラブ員によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

(7) 社会全体の「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上

*教職員向け学校教育自己診断の「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」についての肯定率（H28：63%）を、平成 31 年度までに 70%以上とする

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成29年12月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>○今年度は、昨年度比（平均）で、さらに約3%高い評価をいただきました。経年変化を確認する観点から、今年度も、肯定率80%以上（○）ならびに60%未満（×）の主な項目と認識、今後の課題を記します。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「授業には、ICT機器が積極的に取り入れられている」91%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「学校は教育方針をわかりやすく伝えており、共感できる」86%</p> <p>○「学習に対する評価は適切で納得できる」84%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「授業では主体的・対話的で深い学び等、さらなる向上をめざしている」93%</p> <p>○「本校のカリキュラムは、生徒の進路希望・適性に応じている」95%</p> <p>*今年度も、ほとんどの項目で高い評価をいただきました。とりわけ、いわゆるアクティブ・ラーニングについては、生徒・教職員ともに肯定的な回答がますます増えています。引き続き、さらなる授業力の向上、より適切なカリキュラムの構築に努めます。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」80%</p> <p>○「教職員は生徒の進路実現に積極的に取り組んでいる」83%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会が数多く提供されている」82%</p> <p>○「土曜日や長期休業中の講習・補習は、学力向上や進路実現に役立っている」82%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「将来の生き方や進路を考える機会を数多く提供している」91%</p> <p>○「土曜日や長期休業中の講習は、生徒の希望進路実現に役立っている」86%</p> <p>*進路指導についても、すべての項目で、継続的に高い評価をいただきました。生徒の希望進路実現に向けて、さらに戦略的・効率的な支援に努めます。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」80%</p> <p>○「本校の教職員は人権を尊重しており、体罰やセクハラはない」85%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「学校の生徒指導方針に共感できる」81%</p> <p>○「人権を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」83%</p> <p>○「クラブ活動は充実しており、活動時間・内容は適切」80%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「生徒の人権を尊重した指導を行っており体罰やセクハラはない」93%</p> <p>○「本校のクラブ活動は充実しており、活動時間・内容は適切である」81%</p> <p>*生徒指導等についても、昨年度とほぼ同じように高い評価をいただきました。引き続き、高津らしい生徒指導を進めていきたいと考えています。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>■生徒【80%以上】</p> <p>○「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」88%</p> <p>○「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」86%</p> <p>■保護者【80%以上】</p> <p>○「本校では、校風・校是を踏まえた教育活動が行われている」92%</p> <p>○「SSH、GLHSとして設定されている活動は充実している」93%</p> <p>○「教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」89%</p> <p>○「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っており、信頼感がある」81%</p> <p>■教職員【80%以上】</p> <p>○「本校の教育活動は、学校経営計画等に基づき、適切に行われている」90%</p> <p>○「生徒のより効果的な学校生活に向け、柔軟かつ迅速に取り組んでいる」91%</p> <p>○「保護者と緊密に連携し、信頼感が醸成されている」95%</p> <p>○「本校の教育活動を積極的にアピールできている」93%</p> <p>*今年度も、学校運営全般に関して、共感を伴う高い評価をいただきました。教職員の取り組み等をしっかりと見守っていただいていることや、相互の信頼感が再確認でき、本当に嬉しい限りです。より一層の向上に努めます。</p> <p>【その他】</p> <p>■生徒【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「高津高校に入学してよかった」86%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」43%</p> <p>■保護者【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「高津高校に入学させてよかった」91%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」59%</p> <p>■教職員【80%以上】【60%未満】</p> <p>○「本校のアドミッションポリシーは明瞭である」93%</p> <p>○「生徒の個人情報適切に守られている」95%</p> <p>○「生徒や保護者が、気軽に相談できる環境が整っている」93%</p> <p>×「教室・廊下・トイレ等の環境は、学習の場にふさわしい」54%</p> <p>*今年度も、生徒・保護者ともに「高津高校に入学して（させて）よかった」という回答が安定して高水準でした。一方で、トイレ等の環境面は、引き続き低い評価となりました。できる限りの工夫等を行うとともに、望ましい学習環境の維持に努めます。</p>	<p>第1回（8/28）</p> <p>【平成29年度学校経営計画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高津授業メソッド」については、小・中学校で行われているカリキュラムマネジメントのように、みんなで共有で取り組めるものをつくりあげることが大切だと思う。 ・ただ、マニュアル化すると、往々にして固定されてしまうという弊害を招いてしまうこともあるので、どんどんアップデートしていくことが必要だろう。 ・英語を伸ばすには、国語力を伸ばすことが必要でもある。他教科、他学年で何をしているか知らないのは良くない。例えば、理科と家庭科で関連のあることを互いに理解しあって教える等、教科横断型の授業も視野に入れ、「チーム高津」として全教員が携わることができるよう、計画的に進めていただきたい。 <p>【情報発信、生徒指導等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、学区撤廃の影響もあり、どんな生徒に来てもらいたいのか、きっちりと発信していくことが求められている。進学実績に加えて高津の魅力に関する発信が必要だ。 ・HPやYOU TUBEなどいろいろなツールがあるが、実際にはどのツールが一番見られているのか、人気や人数は追跡できるのか。追跡できるのであれば、それを分析して次の一手をどう打つかを考えることが必要である。 ・学校生活全般について、子どもから話を聞き、先生方が実践していただいている取組みをありがたいと感じている。個々の先生の能力も大きいですが、次はいかにその素晴らしさをまとめあげるかが大事。「チーム高津」をさらに推進していただきたい。 ・髪型・服装だけが自由であとは厳しい」とか、現在と比べて昔の卒業生は「サボっていることが高津の良さ」のように言う人もいるが、「やることはやらんとあかん」という、本来の「自由と創造」を伝えていくべき。今、自分は何をしなければならないのかを考えさせる指導を大切にしていってほしい。 <p>第2回（12/20）</p> <p>【平成29年度学校経営計画の進捗状況等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画の進捗状況については、ほとんどの項目において設定目標を上回るなど、今年度も概ね順調に進めていただいている。引き続き、「チーム高津」として教職員が力を合わせて生徒たちの持てる能力を最大限引き出す指導に努めていただきたい。 <p>【校則について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ府立学校とは言え、各学校の状況にはおのずと違いもある。それぞれの現状や生徒・保護者等のニーズに合わせて指導していけばよいのではないかと。本校においては、現状で大きな問題はないと思うので、大きな修正等は必要ないだろう。 <p>【バリアフリーについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校はバリアフリーのトイレが一カ所しかなく、エレベーターもないなど、他校に比べてユニバーサルデザインの観点からは、遅れていると言わざるを得ない現状である。アスベストの関係で工事ができないところもあるなど難しい面もあると思うが、引き続き、教育庁に対して、毎年要望を出していくなど改善に向けた働きかけを続けてもらいたい。 <p>第3回（3/22）</p> <p>【大学入試結果（会議当日現在）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の報告は、途中経過ということなので、引き続き結果を見守りたいが、グローバル化が言われる中で、高校卒業時点で直接海外の大学への進学をめざす高校生も出はじめていると聞いている。高津高校の卒業生の状況はいかがか。⇒大阪府でも国際科等を有する高校を中心として、直接海外の大学への進学をめざす高校生は、少しずつ増えているようだ。ただ、GLHSの卒業生の多くは、まずは国内の大学に進んだうえで、留学をめざす生徒が多いのが現状であり、高津高校においても、直接海外の大学進学を希望する生徒は、今年もいなかった。 ・国際的に見れば、いわゆる「京阪神」と言われる大学でも、ランキングは決して高くない。高津高校で直ちにそういう生徒を育ててもらいたいとは思わないが、将来的には、高校卒業時に海外の大学への進学をめざす生徒が出てきてほしいかなと思っている。 <p>【学校教育自己診断の結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年に勝る高評価だということで、学校としての丁寧な取り組みの成果だろうと思う。教職員の皆さんの努力に感謝したい。ただ一方で、今年度もトイレやバリアフリーに関する項目については、まだ改善の要望等が多い。学校だけで解決できる問題ではなく、また財政面の問題もあるが、引き続き、粘り強く府としての対応を求め続けてもらいたい。 <p>【平成30年度学校経営計画（案）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大筋として、大きな修正はないものと捉えた。この間の取組が一定の成果を収めていることもあり、これまでの方向性を継続し、さらなる進化・深化に努めていただきたい。 ・例えば、体験型進路学習については、創立100周年というまたとない契機であることも踏まえてOBや外部の人脈等をさらに活用して、もっと知らない世界、「こんな世界があるのか」という発見ができるような“オンラインワン”の中小企業等を、開拓してみても面白いと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力をふまえて、高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1) 生徒のもつ学力を最大限引き出す ア. 魅力ある授業の実施(「高津授業メソッド」づくり (STAGE 1))</p> <p>イ. 英語運用能力 (四技能) の向上</p> <p>(2) 海外の科学先進校等との交流促進 ア. 交流対象校の拡大と交流日数・内容の充実</p> <p>(3) 進路指導をさらに充実させる ア. 体験型進路学習の一層の充実</p>	<p>(1) ア. 新学習指導要領や大学入試改革を見据えて、4月に、アクティブ・ラーニングの推進と大学進学実績の両立を可能とする「高津授業メソッド」の確立をめざした担当部署を立ちあげ、年内の教職員の意識のすり合わせ(大きな方向性の共有)ならびに基盤づくりを図る。(新規)</p> <p>イ. 1・2年生を対象に、実用英語技能検定試験、TOEFLiBT(チャレンジ)等の受検を促進する。(継続・発展)</p> <p>(2) ア. 交流対象校を増やす(台湾・ニュージーランドを予定)とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。(新規)</p> <p>(3) ア. 総合的な学習の時間を活用し、7月と10月に実施する体験型進路学習を通して、進路に対する意欲を高める。(継続・発展) 1年生「職場訪問」 2年生「大学研究室訪問」</p>	<p>(1) ア. 教員向け学校教育自己診断に「高津授業メソッド」の推進状況に関する項目を新設し、肯定率80%以上とする。</p> <p>イ. 1・2年生全員に実用英語技能検定試験の受検を促し、英検2級合格者(H28:112人)を100人以上で維持する。 ・TOEFLiBTチャレンジのスコア取得をステージ2/2年次(対象人数の10%以上が60点以上、70%以上が40~59点)とする。</p> <p>(2) ア. 交流先の増加(台湾・ニュージーランドを予定)、参加生徒の満足度90%以上とする。</p> <p>(3) ア. 生徒向け学校教育自己診断での体験型進路学習に対する満足度(H28:93%)を90%以上で維持する。</p>	<p>(1) ア. 評価指標とした「高津授業メソッド」の進捗状況についての肯定率は93%と、目標を大きく上回ることができた。2020年の大学入試改革を視野に、引き続き、深化させていきたい。(◎)</p> <p>イ. 評価指標とした「英検2級合格者」は、12月時点で106人と、すでに目標は達成できた。あと1回の結果待ちで、さらに期待できる。(◎) ・TOEFLiBTチャレンジについては、60点以上24%、40点以上78%と目標を達成した。引き続き、英語4技能の向上に努める。(◎)</p> <p>(2) ア. 予定通り、交流先を増やすことができ、参加生徒の満足度もニュージーランド100%、台湾96%と評価指標を上回ることができた。(◎)</p> <p>(3) ア. 評価指標とした「体験型進路学習の満足度」は96%と、今年も設定目標を上回った。内容面のさらなる充実に努める。(◎)</p>
2 豊かな心をはぐくみ規律・規範の確立	<p>(2) 規律・規範意識の向上 ア. 基本的な生活習慣の定着</p> <p>(3) 生徒の自主活動の活性化 ア. 生徒自治会活動のさらなる活性化</p> <p>(4) ア. 保健室利用、教育相談体制の充実</p>	<p>(2) ア. 教員間で生徒指導方針を共有し、挨拶の励行と遅刻者数の減少に取り組む(継続)</p> <p>(3) ア. スクールアイデンティティに基づき長年継続されてきた記念祭(文化祭・体育祭の一括実施)の分割実施初年度にあたり、教職員と生徒が一体となって実施体制及び運営体制を抜本的に見直し、新たな伝統創生を円滑に進めることで、本校ならではの自治会活動のさらなる活性化を図る。(新規)</p> <p>(4) ア. 支援や配慮を要する生徒対象に、スクールカウンセラーによる助言等の機会を通して、生徒及び保護者の悩みの解消に努める。(継続・発展)</p>	<p>(2) ア. 遅刻者数(H28:2,329件)を2,000件以下にする。</p> <p>(3) ア. 行事後の生徒の満足度(文化祭・体育祭の平均)を90%以上とする。 ・生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率(H28:62%)を5%以上引きあげる。</p> <p>(4) ア. 生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度(H28:81%)、保護者の学校への相談に対する満足度(H28:79%)を、ともに80%以上とする。</p>	<p>(2) ア. 遅刻者数は、2,472件と目標を達成することはできなかった。次年度も、引き続き重点項目として取り組みたい。(△)</p> <p>(3) ア. 記念祭後の生徒満足度は97%と、行事の分割に伴う低下は杞憂に終わった。生徒たちの変化に対する対応能力の高さに感謝したい。(◎) ・「自治会活動に対する肯定率」は、66%と、評価指標はクリアできたが、さらなる改善に努めたい。(○)</p> <p>(4) ア. 評価指標とした「保健室利用、教育相談に対する満足度」ならびに「学校への相談に対する満足度」は、ともに83%と目標を達成できた。(○)</p>
3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	<p>(1) 教科指導力の向上 ア. 教科指導力の向上</p> <p>(3) ミドルリーダーの育成、経験の少ない教員の資質向上</p> <p>(7) 安全衛生委員会の機能向上</p>	<p>(1) ア. 教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。(充実) ・生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。(継続)</p> <p>(3) ア. より効果的・効率的な業務遂行が可能となる、本校らしいヒエラルキーを構築し、計画的なミドルリーダー育成に努める。(継続・充実)</p> <p>(7) ア. 「働き方改革」の流れを念頭に、校内規約に基づき、教職員の安全及び健康の確保、ならびに快適な職場環境の形成の促進に努める。(充実)</p>	<p>(1) ア. 生徒授業アンケート1~9全質問の平均値3.2以上を維持し、さらなる向上に努める。</p> <p>(3) ア. 教員向け学校教育自己診断における、ミドルリーダーの育成等に関する肯定率(H28:75%)を70%以上で維持する。</p> <p>(7) ア. 教職員向け学校教育自己診断における「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率(H28:63%)を65%以上に引きあげる。</p>	<p>(1) ア. 生徒授業アンケート結果は3.24と評価指標を達成できた。「主体的・対話的で深い学び」の構築のため、引き続き、向上を図る。(○)</p> <p>(3) ア. 評価指標とした「ミドルリーダーの育成」については、77%と目標を達成できた。引き続き、次代を担う教員の育成に努める。(◎)</p> <p>(7) ア. 評価指標とした「気軽な相談」については、85%と目標を大きく上回ることができた。さらに教職員の負担感の軽減に努める。(◎)</p>